

# 岩手県から北海道へ

氏名 松川任孝

岩手県立花巻北高等学校 → 北海道札幌東高等学校  
(期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日)

## 1 岩手県の教育

### ○ いわて進学支援ネットワーク合同事業

- ・ 医師や弁護士、技術者や研究者といった人材育成を目的とする「県政課題貢献人材育成」
- ・ 国公立大学合格者数や難関大学合格者数の底上げをねらいとした「進学目標達成推進」以上をねらいとして、平成20年度から継続実施している。

生徒個々の基礎力を把握し、授業改善および指導力の向上を推進する。

また進路意識や学習意欲の向上をめざし、岩手県内各校が連携した指導および支援を目的としている。

事業の具体例の一部としては

- (1) 1学年最難関大講座（外部講師による講座）
- (2) 2学年東大講座、難関大講座（外部講師による講座）
- (3) 3学年東大講座、難関大講座、医学部対策講座（岩手県内高校教員および外部講師による講座）
- (4) 高大連携ウィンターセッション

（大学での講義や研究に高校1・2年の希望者が参加、例年12月、2泊3日の日程で実施）

### ○ 進学実績向上のための情報交換

#### ・ 「16校会議」

岩手県の進学指導が中心となる「16校」の校長、進路指導主事、学年主任で構成される会議である。

学習指導や進路指導を中心とした問題点を見出し、実践事例紹介や改善提案を岩手県全体で共有する。各高等学校での指導に活かし、医学部医学科等への挑戦を支援し、地域の要請に応えられるような進学実績向上を目指す。また岩手県全体の進学実績向上や、難関大学合格者数の底上げを目指す。

#### ・ 模試および大学入試合格者数情報交換

岩手大学、岩手県立大学、東北大学、東京大学、京都大学等は学部学類ごとに受験者数と合格者数の情報交換を行う。3学年では、毎月の共通テスト対策マーク模試から本番の共通テストまで、各校各科目の自己採点結果の情報交換を行う。

## 2 学校や地域の特色ある教育活動

### ○岩手県の特徴ある教育活動

#### ・高等学校基礎力確認調査（1学年・2学年）

国数英3教科、例年4月頃を実施される。

学習指導要領の目標及び内容に基づき、その全範囲から出題された試験問題により、生徒個々の基礎力の定着度を調査する。受験した生徒の高等学校で教職員が採点集計を行う。

過年度の実施結果との比較や受験年度の主な特徴や弱点分野の分析を行い、岩手県のホームページでも公開される。この調査結果も踏まえ、岩手県教育委員会指導主事より改善提案や指導方法の提言等が行われ、岩手県全体の国数英3教科の指導力向上や、生徒の学力向上へ資することを目的とする。

#### ・中高連携学力向上推進事業（数学・英語で実施）

算数数学教育の学校種横断的な課題等を共有し、その解決に向けた取組を充実させる。岩手県内各校の児童生徒の学力向上と、教員の授業力向上を図る。

数学での事業は以下のものが挙げられる。

- ・算数数学教育研修会（算数数学の授業改善を図るための研修）
- ・授業改善のための学校訪問指導
- ・中高連携数学授業づくり推進教員養成研修会（教員の指導力向上のための研修）
- ・中高連携数学課題別サミット（数学指導上の課題解決のための研修）
- ・授業実践セミナー（優れた授業を共有するための研修）
- ・地区研修支援ネットワーク（地区の研修を支援する取組）

### ○岩手県立花巻北高等学校の特徴ある教育活動

#### ・総合的な探究の時間における生徒個々の自由研究、H×ACT（ハクト）

ハクスタ（研究）、ハクフィ（フィールドワーク調査）、ハクレク（講演）、ハクプレ（発表）の4つの項目に分けて実施

※詳細は岩手県立花巻北高等学校ホームページ <http://www2.iwate-ed.jp/hkn-h/>

#### ・姉妹校 ASMSA（米国アーカンソー数理芸術学校）との相互派遣による国際交流

新型コロナウイルス感染拡大により派遣中止の際、オンラインによる交流を開始

#### ・百年の学び講演会（1学年・2学年、長期休業課外（講習））

花巻北高同窓会の支援を頂きながら、毎年開催継続

令和3年度は、11月に東京大学に入学した花巻北高の卒業生による講演を実施予定

#### ・花高学びの祭典（1学年・2学年、長期休業課外（講習））

長期休業中の課外（講習）は、教科による演習等は実施しない

家庭科や芸術科や保健体育科を含め、学びを深める多教科による講座を開催

令和4年度は、保健体育科と家庭科による合教科授業を全国発表予定（養護教諭も支援）

#### ・生活デザイン

Classi を利用して、生徒個々が学習計画と学習記録を行い、自走する生徒を育成し支援する

人生、高校3年間、1年間、学期ごとに計画を立て、生徒個々の取組を記録していく

#### ・シラバス

授業の中で「花高レベル」「黒橋レベル」「桜雲レベル」の3つを設定

生徒個々が目指す進路目標達成に向けて、生徒自身がレベルを選択する

シラバスも学期ごとに生徒に提示し、レベルごとの到達点を示す

3つのレベルは成績レベルではなく、進路到達レベルである

生徒は自分の進路達成のため、どのレベルを目指すべきか自ら選択する

教員はレベルごとに到達保障できる課題を提示し、到達しているかを確認する

生徒個々は、シラバスに示された学期ごとの到達点に対して、到達できたのかが評価となる

### 3 私が取り組んできた実践

#### ○岩手県高等学校教育研究会数学会「第15次研究委員会」

3年間を任期として、岩手県内8名程度の高等学校数学教員から構成される。

高校数学に関する研究テーマを設定し、そのテーマの内容に関する研究を行う。

1～2ヶ月に1回程度集まり研究を継続実施し、研究成果を冊子にまとめる。

私が所属した第15次研究委員会は「整数」をテーマとして研究を行った。

令和3年度現在、「第19次研究委員会」8名が研究活動を行っている。